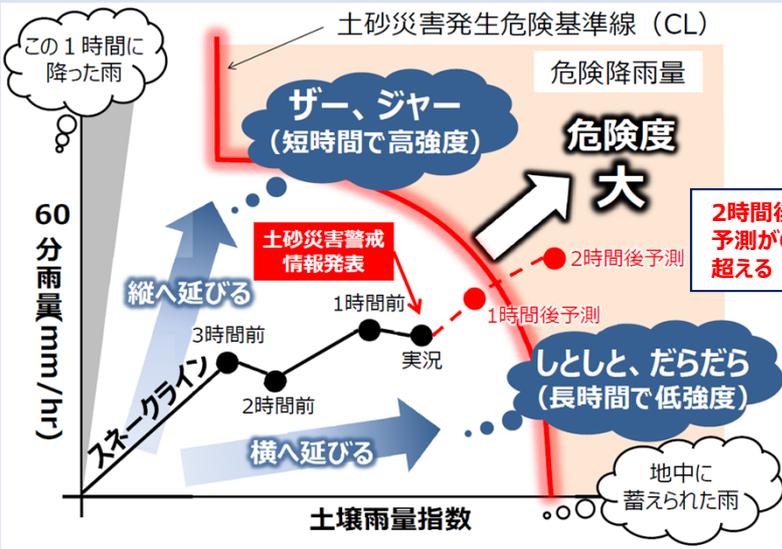


山形県と山形地方気象台は、土砂災害警戒情報の発表基準を見直し、**令和6年5月23日（木）**から新たな基準により運用します。

1. 土砂災害警戒情報

大雨により、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、**警戒レベル4相当情報**として、市町村長の避難指示の発令判断や住民の自主避難の判断を支援することを目的に発表する防災情報である。（山形県では平成18年9月に運用開始）



警戒レベル	避難情報	土砂災害に関する気象情報
レベル5	緊急安全確保	大雨特別警報（土砂災害）
レベル4	避難指示	土砂災害警戒情報
レベル3	高齢者等避難	大雨警報（土砂災害）
レベル2	—	大雨注意報
レベル1	—	早期注意情報（警報級の可能性）

2. 現行基準の課題・基準見直しの背景

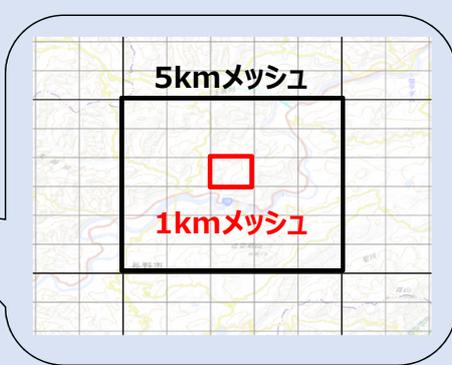
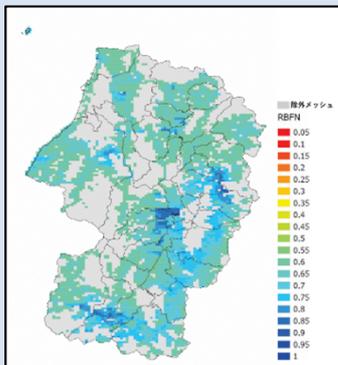
- 市町村長の**避難指示の発令**や住民の**自主避難の判断**を支援するため、土砂キキクルや山形県土砂災害警戒システムにより、**土砂災害の危険度が高い地域をよりの確に示す**必要がある。
 - 本県の土砂災害警戒情報は、発表中に発生する土石流、同時多発的ながけ崩れ（CL対象災害）を全て捕捉できているものの、**CL対象災害発生率は全国平均と比較して低い傾向**にある。
（見逃しはないが空振りが多い）
- ※見逃し：土砂災害警戒情報が発表されていない時にCL対象災害が発生すること。
 ※空振り：土砂災害警戒情報が発表されている時にCL対象災害が発生しないこと。

土砂災害警戒情報の精度向上のため、蓄積された土砂災害事例や降雨データをもとに発表基準を見直した

3. 基準見直しの内容

■ 発表基準の細分化

きめ細やかな情報発信のため、**発表基準を1kmメッシュ単位に細分化**



【現行】
5kmメッシュ(約5km四方)単位で基準を設定
 【見直し】
1kmメッシュ(約1km四方)単位で基準を設定

※土砂災害防止対策基本指針の変更(令和2年)により1kmメッシュでの設定が基本となった。

■高精度化

近年の降雨事例や土砂災害発生事例を発表基準へ反映

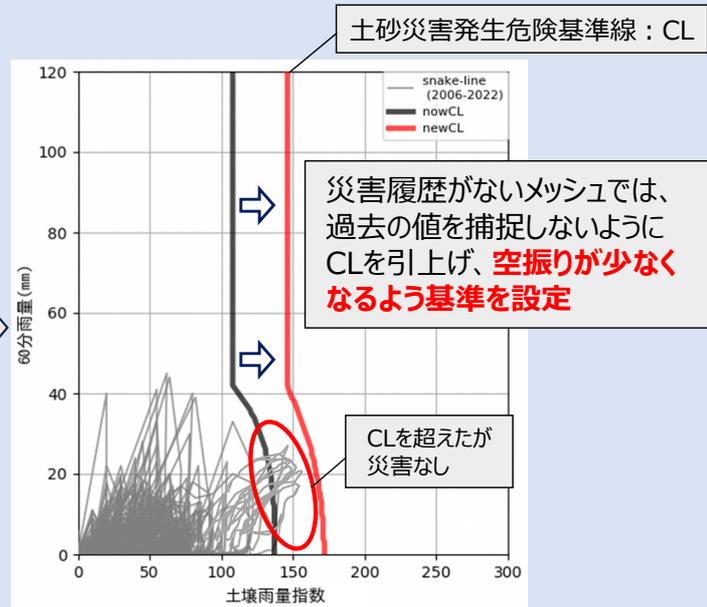


がけ崩れ（舟形町）
（平成30年8月）

土石流（飯豊町）
（令和4年8月）



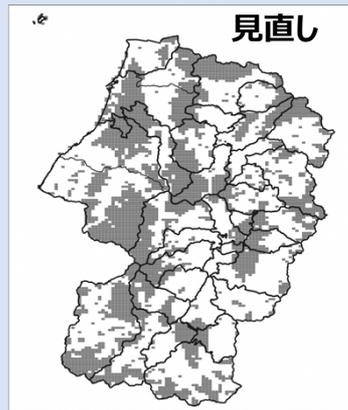
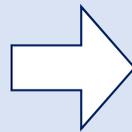
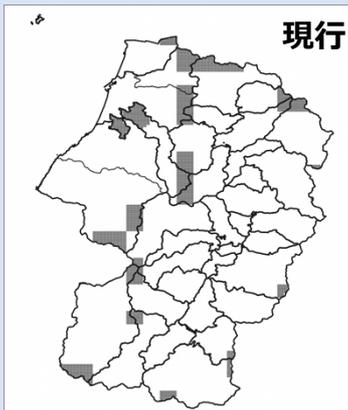
平成18年～令和4年の土砂災害・
降雨データを用いて検討



災害履歴がないメッシュの例

■除外メッシュの見直し

土砂災害警戒区域等の指定状況を踏まえ、土砂災害のおそれのない場所を1kmメッシュ単位で土砂災害警戒情報の判定対象から除外



※発表対象地域から除外したメッシュ
現行： 831メッシュ（約9%）
見直し： **3,879メッシュ（約42%）**
（県全体：9,312メッシュ）

※灰色：除外メッシュ
土砂災害のおそれのない平地や
居室のある建物がない地域等を選定

4. 基準見直しの効果

精度向上により、土砂災害警戒情報の発表頻度が現基準の23%～55%に減少

対象地域	土砂災害警戒情報 発表頻度			（参考） 大雨警報（土砂災害） 発表頻度		（参考） 大雨注意報 発表頻度	
	（回/年）		割合	（回/年）		（回/年）	
	現基準	新基準		現基準	新基準	現基準	新基準
村山	0.73	0.40	55%	13.53	6.59	21.59	21.24
置賜	1.08	0.25	23%	9.24	5.29	23.47	22.88
庄内	1.13	0.28	25%	7.18	3.71	13.41	11.94
最上	1.01	0.40	40%	9.24	4.41	10.94	12.94

※平成18年～令和4年の雨量データにより算出した1発表地域あたりの回数(県内発表地域：38地域)
地震による基準引き下げは考慮しない

5. 県民の皆様へ

- 土砂災害警戒情報がこれまで以上に警戒避難のための重要な情報となります。
- 県民の皆様は、市町村長が発令する避難指示などの情報を確認し、速やかに避難してください。